

# 加賀市の子育て世代の現状と課題 および支援とサービス等について

# 妊娠期における子育て世代の現状と課題

- ① 母子手帳交付時アンケートから、若年妊娠や精神疾患等の理由により不安を持つ妊婦(2割程度)の支援が必要である。
- ② 望まない妊娠で悩んでいる妊婦(1.8%)の支援が必要である。
- ③ 20歳未満の若年妊婦および40歳以上の高齢妊婦が増加傾向にある。
- ④ 経済的困窮や家庭環境の複雑化から、養育能力の低さが予想されるケースがある。
- ⑤ 妊婦の不健全な生活習慣(喫煙・飲酒など)の変化から、妊婦中に貧血・高血圧・糖尿病等が見られ、母子への影響が懸念される。妊婦の食事・生活指導が重要である。

# 出産期における子育て世代の現状と課題

## 出産直後

- ① 産後うつの疑いなど、産後の支援が必要な妊婦(31.3%)が増加傾向にある。
- ② 支援がない家庭(祖父母等が県外にいる・家族構成等が複雑な家庭等)が見られ、産後ヘルパーの支援を必要とするケースが増加傾向にある。
- ③ 母子の心身のケアやサポートなど、24時間体制の相談を必要とする。
- ④ 低体重児(7.8%)のうち、1,500g未満の極低出生体重児(0.85%)出生が見られ、横ばい傾向であるものの支援が必要である。
- ⑤ 長期入院・医療依存の高い重度在宅療養児もおり、母の精神的支援・在宅医療・福祉サービス支援が必要となる。

# 子育て期における子育て世代の現状と課題

① 20歳未満の若年出産や高齢出産の親が増えている。

- ・親の生活力や経済力の弱さなどの不安感がある。
- ・運転免許がない、取得できない等、移動手段に困る。
- ・育児の不安や弱さがあり、精神的に抱えてしまう。
- ・情報が少なかったり相談する人やつながりが少ない。

② 両親の離婚からひとり親の増加や家庭環境の複雑化・祖父母の就労もあり、家庭での保育ができない。

- ・母の就労を余儀なくされる現状があり、早急に保育を必要とする希望が多い。
- ・核家族化が進み、病時にも祖父母や近隣の人の手助けを求められない。

③ 共働き家庭の増加に伴い、乳児保育・延長保育・休日保育などのニーズが高い。

# 子育て期における子育て世代の現状と課題

- ④温泉地である地域特性もあって、要保護家庭が多く、親の育児力の弱さや経済的支援を要する家庭など、親への支援や相談が必要である。
  - ・子どもの生活や育ちを保障する支援や対応が必要である。
  - ・親の特性などから虐待やDVにつながるケースがある。
- ⑤発達に遅れのある子・育ちや特性からくる気になる子の早期発見・早期対応が望まれる。支援を要する子の援助や保護者の不安や困り感に対応する必要がある。
- ⑥アレルギー疾患・身体的疾病など、子どもの疾病が複雑になってきているため、保護者の不安も大きく、個々に応じた対応と支援が求められる。



# 利用者への支援とサービス等について

妊  
娠  
期

## 【現状と課題】

- ①母子手帳交付時アンケートから、若年妊娠・精神疾患等の理由により不安を持つ妊婦(2割程度)の支援が必要である。
- ②望まない妊娠で悩んでいる妊婦(1.8%)の支援が必要である。
- ③20歳未満の若年妊婦および40歳以上の高齢妊婦が増加傾向にある。

④経済的困窮や家庭環境の複雑化から、養育能力の低さが予想されるケースがある。

⑤妊婦の不健全な生活習慣(喫煙・飲酒など)の変化から、妊婦中に貧血・高血圧・糖尿病等が見られ、母子への影響が懸念される。妊婦の食事・生活指導が重要である。

## 【必要な支援】

妊娠届け等の機会に面談を行うこと等により全ての妊産婦等の状況を継続的に把握

心身の不調等により手厚い支援を要する者等について、関係機関と協力して支援プランを策定

妊婦健診等の機会における妊婦に対する保健指導・支援

産前・産後サポート事業等による助産師等の専門家による相談支援や子育て経験者など「話し相手」等による相談支援

## 【支援とサービス等】

妊娠届け・母子手帳交付時における相談・支援

・加賀市妊娠ライフプランを作成  
・出産準備手当て給付申請時に保健指導相談

・妊娠期パパママ教室  
・孫育てサロン

医療機関や開業助産師等による助産師連絡会

出産直後

【現状と課題】

①産後うつの疑いなど、産後の支援が必要な妊婦(31.3%)が、増加傾向にある。

②支援がない家庭(祖父母が県外にいる・家族構成等が複雑な家庭等)が見られ、産後ヘルパーの支援を必要とするケースが増加にある。

③母子の心身のケアやサポートなど、24時間体制の相談を必要とする。

④低体重児(7.8%)のうち、1,500g未満の極低出生体重児(0.85%)出生がみられ、横ばい傾向であるものの支援が必要である。

⑤長期入院・医療依存の高い重度在宅療養児もおり、母の精神的支援・在宅医療・福祉サービス支援が必要となる。

【必要な支援】

産前・産後サポート事業等による助産師等の専門家による相談支援や子育て経験者など「話し相手」等による相談支援

・出産直後の母子への心身のケアや育児サポート

・乳児家庭全戸訪問による子育て支援に関する情報提供や養育環境等の把握

・乳幼児健診・新生児訪問等による保健指導・支援

・養育に関する指導、助言等による当該家庭の適切な養育の実施

【支援とサービス等】

医療機関や開業助産師等による助産師連絡会

・産後ケア助成事業  
・産後家庭支援ヘルパー派遣事業  
・乳児家庭全戸訪問

・低出生体重児の訪問  
・来所相談  
・電話相談



【現状と課題】

①20歳未満の若年出産や高齢出産の親が増えている。  
 ・親の生活力や経済力の弱さなどの不安感がある。  
 ・運転免許がない、取得できない等、移動手段に困る。  
 ・育児の不安や弱さがあり、精神的に抱えてしまう。  
 ・情報が少なかったり相談する人やつながりが少ない。

【必要な支援】

子育て中の親子が相互交流を行う場所における相談・情報提供の支援

【支援とサービス等】

- ・親子つどいの広場
- ・育児サークル
- ・かがファミリーサポートセンター
- ・児童家庭支援センター
- ・子育て支援センター
- ・親子の遊びの教室

②両親の離婚からひとり親の増加や家庭環境の複雑化・祖父母の就労もあり、家庭での保育ができない。

・母の就労を余儀なくされる現状があり、早急に保育を必要とする希望が多い。  
 ・核家族化が進み、病時にも祖父母や近隣の手助けを求められない。

家庭での養育が一時的に困難になった子どもについての不定期の預かりサービスの提供

- ・一時預かり
- ・マイ保育園登録
- ・子育て短期支援
- ・病児病後児保育
- ・放課後児童クラブ

③共働き家庭の増加に伴い、乳児保育・延長保育・休日保育などのニーズが高い。

保護者の就労状況等に応じた認定こども園・幼稚園・保育所

- ・保育園、認定こども園、幼稚園入園手続き

【現状と課題】

④温泉地である地域の特性もあって、要保護家庭が多く、親の育児力の弱さや経済的支援を要する家庭など、親への支援や相談が必要である。

- ・子どもの生活や育ちを保障する支援や対応が必要である。
- ・親の特性などから虐待やDVにつながるケースがある。

【必要な支援】

児童虐待の発生  
予防・早期発見・  
早期対応  
子どもの保護・支  
援、保護者の支援

【支援とサービス等】

- ・こども支援相談室
- ・保育園、認定こども園、幼稚園
- ・乳幼児健診

⑤発達に遅れのある子・育ちや特性からくる気になる子の早期発見・早期対応が望まれる。支援を要する子の援助や保護者の不安や困り感に対応をする必要がある。

⑥アレルギー疾患・身体的疾病など、子どもの疾病が複雑になってきているため、保護者の不安も大きく、個々に応じた対応と支援が求められる。

疾病や障害のある  
子どもの支援

- ・乳幼児相談
- ・親と子の発達相談
- ・巡回教育相談
- ・こども育成相談センター
- ・ふれあい福祉課